

仙台復興支援 ふれあいコンサート報告

会長 朱 明義 (茨木 RC)

震災後、弊クラブは緊急的な物資供給支援をはじめ、姉妹・友好クラブと手を携え、また第2660地区のご指導のもと多種の基金を運用させていただきながら、被災地に対する支援を連綿と行ってまいりました。

本年度の弊クラブの方針は、他の事業を極力控え東日本の復興支援に特化するものです。その方針の立脚した、いわば総決算と位置付ける事業が、今回の「仙台復興支援ふれあいコンサート」でした。

緊急的な支援が一段落し、支援に対する思いが風化したかの報道が取りざたされる昨今、弊クラブにとって、この時期に被災者の方々のメンタルケアのための支援事業を行うことが有意義であると確信し、実施に至りました。

事業を計画するにあたり、メインの大規模コンサートを軸に、いくつかのミニコンサートを行うプランを立てましたが、実施前の現地視察を経て、プランの変更を致しました。それは、大きなイベントに赴くことができずに、仮設住宅に引きこもっておられる方々が多数いらっしゃることを知ったからです。住宅のドアをノックしてお声掛けを致し、茨木ロータリー会員が一人でも多くの方々と直に接し共にコンサートを楽しみ元気になる、そんな空間こそが、森 祐理さんのコンサートの内容にはふさわしいと考えました。

成果は、数字だけで表せるものとは思いませんが、量的には準備した会場が全ていっぱいになる盛況でした。それには、弊クラブ会員が仙台青葉・台北西北両ロータリー会員とともに、お一人お一人お声掛けをした賜です。とにかくコンサートの場においてさえ頂ければ、絶対に喜んでもらえるかと確信して、一軒一軒、沢山のドアをノックしました。

この事業の成果というものは、触れ合った被災者の方々が、これから力強く前に一歩進みだしてもらえるかに尽きると思います。

私たちは、この段階で本年度の支援活動が成功だと安穩に思うことは出来ません。

既に次年度の、新たな支援活動に着手しているところです。

この支援活動を終わられる日がいつ来るのだろうか…と改めて感じた今回の事業でしたが、いつの日か支援活動が終わる日、すなわち被災地が元気を取り戻し、被災者の方々が自分たちの手で復興を成される日を願いつつ、弊クラブは支援を続けなければならないとメンバー一同、気持ちを新たに致した次第です。

最後になりますが、仙台青葉ロータリークラブには、企画段階から多大なるご協力を頂き感謝の意に

堪えません。今後も、情報交換をしながら協力体制の下、今後の支援活動を行う所存です。

< 事業内容 >

東北少年院 3月2日(金)13:30~14:30

院生30名、教官20名、茨木RC10名、仙台青葉RC6名

荒井小学校用地仮設住宅 3月2日(金)15:30~17:00

参加者54名、茨木RC10名、仙台青葉RC6名

箱塚屋敷仮設住宅 3月3日(土)10:00~11:30

参加者52名、茨木RC12名、仙台青葉RC8名
台北西北RC2名

箱塚桜団地仮設住宅 3月3日(土)13:00~14:30

参加者38名、茨木RC14名、仙台青葉RC8名
台北西北RC2名

若林日辺グラウンド仮設住宅

3月3日(土)15:30~16:30

参加者48名、茨木RC14名、仙台青葉RC14名
台北西北RC2名

名取市内関上朝市訪問 3月4日(日)9:00~9:30

茨木RC14名、仙台青葉RC7名、台北西北RC2名

石巻十三浜相川復興祭 3月4日(日)11:45~12:30

参加者140名、茨木RC13名、仙台青葉RC5名

